

2022年度

NO.8 (通算 NO30)

2022・6・20

事務局だより

一般社団法人 示現会

事務所 ☎ 03-3824-9128

○ 研究会に参加を

裏面 ○＜特集＞ 75周年記念展の新聞紹介
新入選のことば

絵を描くことを楽しみ、向上心を持ち、努力するのは皆さんの思いではないでしょうか。そのような気持ちに少しでも応えるよう研究会を開催いたします。また、日展に挑戦する皆さんの力になれることもこの研究会の開催目的です。ぜひ参加ください。

コロナ感染も落ち着いてきた感じもありますが、まだまだ油断はできません。皆さん健康にご注意を。



研究会に参加を！

75周年記念の示現会展終了後、初めての作品研究会が6月5日開催されました。
コロナ感染もだいぶ落ち着いてきてはいますが、油断できない状況でもありますので、今回もリモートでの実施にいたしました。
初めての方も多く、57名の参加者がありました。
研究会は3階のアトリエを使い、担当する中西庶務副主任が前もって集計、作成した作品のデータをスクリーンに投影し、常務理事の指導の様子をカメラで撮影、また指導の要約を印刷物に書きこ

どなたでも
日展出品を考えている方は

加できます
できるだけ参加ください



※ 写真と同封でお知らせください
○ 完成作品の号数
○ 出品先(例:日展、奨励展、示現会展、県展等)
○ 係が具体的に記述していただきます。
そして2階では撮影したデータをUSBに移し、返送の準備を行います。皆さんのお手元には研究会の日より2、3日で届く予定です。
7月の研究会は先に配布した案内に「日展向け下絵&大作(構図)」とありますが、この研究会はどなたでもまたどのような目的でも参加できます。来年の示現会展に出品予定者も歓迎します。

6月の参加者より

菊田誠一郎・会友(兵庫)

今年1月に予定されていた研究会が中止され、巡回展で錦織先生から奮って参加するように指示もあり、参加することになりました。複数の講師の方のコメントの音声が入り、思った以上に臨場感があり、遠隔地の人には勧めたいと思います。



菊田さんの作品

笠原さんの作品

笠原直樹・一般(東京)

日展など望外だったのですが、2点のうち1点に絞っていただきました。全然だめだ、と思っていたので挑戦が促されて感謝しております。下絵が小さく、大作の経験も少ないので、行く先わかりませんが、段階的にやってみようと思います。ありがとうございます。



7月研究会案内

7月17日(日)実施日(リモート)

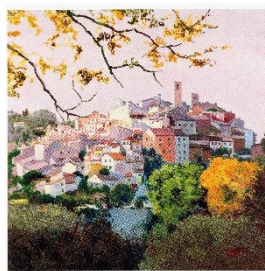
写真締め切り **7月11日(月)**

日展に出品予定の方は構図などから指導が受けられます。ぜひ参加ください。奨励展出品される方もお待ちしております。

参加の方法は、「事務局だより」NO7、またはホームページ「作品研究会」をご覧ください。

水嶋靖博委員ご逝去のお知らせ

「写生地の事なら水嶋さんに聞け」という言葉があるくらい、日本全国を取材、また、ヨーロッパの風景等、独特の色彩で作品を発表しました。享年81歳、心よりお悔やみいたします。



75周年記念展 出品作
[陽光浴びる鷹の巣村]

特集1

75周年記念展新聞記事紹介

山形から 山形新聞4月7付

（第三種郵便物認可） 第4471号（24）

国立新美術館で開幕

示現会展 原田さん 最高賞

全国有数の絵画団体「示現会」の75周年記念・示現会展が6日、東京・六本木の国立新美術館で始まった。一般、会員の作品の中から最高賞の文部科学大臣賞に輝いた村山橋岡、原田一裕さん（73）の「吊るした布と花梨」など、800点近い油彩、水彩画が展示されている。同展での県内関係者の最高受賞は15年ぶり、2人目の快挙となる。

原田さんの作品は1000号の油彩画で、つるした黒いシートを背景に、静物のカリンを配した構図。3カ月ほどかけ、黒い絵の具の下地に皮革刀で削り出す手法で仕上げた。画面の大半が無彩色ながらも、薄めに彩色したカリンと、銀色の絵の具で表現した布のひだ部分が全体を引き立てている。

県内2人目「日の当たるところに出たのかな」

油彩画に取り組み始めた25歳のときから毎年、示現会展に応募し、これまでは、布とカリンや洋なしの受賞に「全く予想してい

最高賞の文部科学大臣賞に輝いた吊るした布と花梨の前で写真に納まる原田一裕さん
＝東京・国立新美術館



村山最高賞

審査員の一人は「前面に出した黒く、後ろに置いた銀色の光り方で、大膽な意を出す手法は、大胆なようで繊細な仕事。毎回、マンネリ化せず斬新な作品を出しているのも素晴らしい」と評価した。展示会は18日まで。

（長岡伸明）
原田さん以外の県内受賞者として出品者は次の通り。
▽現賞＝土屋功（山形）
▽入選＝藤原喜（村山）
▽賞＝藤原弘子（尾花沢）
▽賞＝佐藤光治（酒田）
▽賞＝須藤正義（村山）
▽賞＝中村幸治郎（山形）
▽賞＝阿部シゲ（天童）
▽賞＝二村山（天童）
▽賞＝池田和夫（上山）
▽賞＝河江利彰（天童）
▽賞＝長岡徳高（山形）
▽賞＝野田邦勝（天童）
▽賞＝安達繁（寒河江）
▽賞＝藤原純子（山形）
▽賞＝矢萩（村山）

国立新美術館での75周年記念示現会展が終了して2カ月たちました。引き続き、各支部における巡回展が開催中です。示現会展開催に対しては、新聞で取り上げられ、紹介されました。今回、山形、石川から示現会展の記事を紹介いたします。

石川から

北國新聞4月4日付



巡回金沢展（北國新聞社主催）は11月23、27日に金沢市の県立美術館で開かれる。再入選、出品者は次の皆さん。

▽再入選 谷村信子（金沢） 村上武（同） 谷田出子（立野） 金沢中田比佐子（北） 矢野素子（加賀） 池田千津子（加賀） 齊藤美子（金沢） 清原繁（同） 山口（同） 松本隆（加賀） 熊野智子（小松） 村末二（加賀） 前（白山） 堀田（富山） 明光太郎（小松） 南外雄雄（同） 吉塚春生（白山）

示現会展は6、18日に東京の国立新美術館で開催され、巡回金沢展（北國新聞社主催）は11月23、27日に金沢市の県立美術館で開かれる。再入選、出品者は次の皆さん。

上野さん 会員推挙 示現会展 洋画の75周年記念示現会展の入賞・入選者が決まり、石川県支部から上野茂男さん（加賀）が会員に推挙された。準会員には吉本志津江さん（金沢）が推挙され、藤井尊史さん（内灘）が初入選となった。示現会展は6、18日に東京の国立新美術館で開催され、巡回金沢展（北國新聞社主催）は11月23、27日に金沢市の県立美術館で開かれる。再入選、出品者は次の皆さん。

特集2

ちょっと紹介

75周年記念示現会展の一般入選者は145名でした。入選者の平均の年齢は、66.8歳。初入選者は51名、こちらの平均年齢は、65.5歳でした。

皆さんもよくご存じのグランマ・モーゼスさん（78歳のとき地元のドラッグストアに作品を展示したところ、偶然訪れたコレクターが絵を購入。翌年にニューヨーク近代美術館で作品が展示された。その後80歳で初個展。101歳で死去するまで絵を描き続け、約1600点の作品を遺しました）

が、絵を展示したのは78歳の時、そこから多くの絵を発表し世界中にその名を知られるようになりました。

さて、コロナ禍もあり家に閉じこもる時間が多くなり、気力がなくなったり、絵も描けない、という気持ちになった方もいますが、この機会だから絵をやってみようか、意欲的に取り組み始めた方がいます。絵は年齢に関係なくいつ、どこから始めても面白く楽しいものだと思います。多くの人に絵を描く楽しみを知って欲しいと思いますね。

今回、初入選者の中からお二人の方を紹介をいたします。

80歳以上の方が8名入選しましたが、その中から最高齢の86歳、松岡 健三さん、また3名が17歳での入選でした。そのうちの一人別所杏音さんは新人奨励賞も受賞しました。お二人の新入選の言葉を紹介します。

冬のあめんぼ S50 <新人奨励賞>

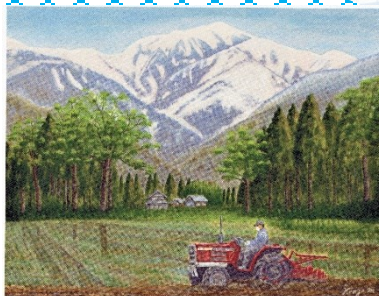
冬の雨上がりの水溜りに、季節外れのあめんぼがいる姿を見て「おかしいな」と思う女の子の姿を変顔で表現しました。その女の子の表情に子供らしいあどけなさを描写するのに苦労しました。

高校の美術部の先生に勧められ、学生という枠を超えた作品展で多くの人に評価していただきたいと思いつき出品しました。

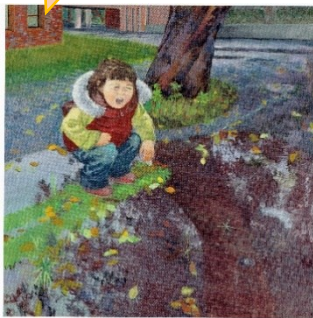
初めて描いた油絵作品だったので、今度はもう少し小さなサイズで幻想的な作品を描きたいと思っています。

別所杏音

皆さんの周りで絵を描いている方、描こうと思っている方を紹介しましょう。



早春の荒島岳 F50 松岡健三



冬のあめんぼ S50 別所杏音(一)



早春の荒島岳 F50

百名山の荒島岳は残雪を残す早春の時期が素晴らしく、毎年、山麓へ出かけ描きました。

今年は、胸椎圧迫症になり、各展覧会への出品は全て止めていました。

支部の会員さんから国立新美術館への出品資料が届けられ、強く誘導されました。絶好の機会と思うようになりました。出品させて頂きました。

入選のお知らせを頂き、身体は衰えても絵は続けたいと思っています。

示現会福井支部 一般 松岡健三

皆さんからの便りを待っています・メール先 佐藤祐治宛 1941sato@gmail.com